

びわ湖フローティングスクール新船建造について

1. 今年度の予定

	新船建造	学習プログラム
H29年5月	・組立開始 ・船名の公募	航海ガイド原稿・ホームページ原案作成 研究航海「(仮)新プログラムの検証」 (年3回)
H29年12月	進水式、諸試験	「湖の子」新体験学習作成プロジェクト会議 (年3回)
H30年1月		新航海ガイド・新ホームページ完成
H30年2月	湖上運転	教員向け乗船計画研修会
H30年3月	竣工・引渡	学習備品新設・移設作業
H30年4月	就航式、習熟運転、教員向け研修航海	
H30年5月	出港式、児童学習航海開始	

2. 船名の公募について

新しい学習船の建造にあたり、県民のみなさまをはじめとする多くの方々と一緒に、みなさまに愛される新しい学習船をつくるため船名を公募。

(1) 募集期間

平成29年5月10日(水)～平成29年6月9日(金)

(2) 応募資格

どなたでも応募可能

(3) 応募方法 (以下のいずれかの方法)

ア シがネット受付サービス

イ 郵送 (ハガキ等)

(4) 選考方法

応募いただいた船名の中から県が設置する選考会において、3点程度の候補に絞り込み、最終的に知事が決定。

(5) 特典

採用された船名の応募者1名に、新しい学習船のペア体験乗船(日時限定)と近江米「みずかがみ」(10kg)を贈呈。(ただし、同一船名を応募した方が複数の場合は、抽選により決定。)

3. 新たな学習プログラムについて

(1) 検討経過

- 新船建造協議会(H27-7/21、H28-7/14)
学校関係者(小学校校長・主幹教諭)等と学習内容および関係機関連携について協議。
- 運営懇話会(H27-9/2、11/17、H28-7/27、10/17)
学識経験者(大学教授)、校長、県民代表等と、艤装や測定機器などに関する専門的な助言や学習プログラムの広がりについて協議。
- 「湖の子」新体験学習作成プロジェクト会議(H27年度より計6回実施)
事前学習から事後学習を含めた探究的な学習の方向性を確認
事前学習資料作成(体験・観察・調査など)、ICT活用による交流学习や発信の必要性を確認。
- 研究航海(H27・28年度 計5航海実施)
めあてを明確にする事前学習と体験活動、多様な体験活動をつなぐテーマ、児童が活動を選べる学習形態についての実践研究を実施。H29年度のすべての航海で事前から事後まで学びがつながる指導計画を立案し、探究的な学習を展開。

(2) 新たな学習プログラムの方向性

児童一人ひとりが課題を設定し、その解決に向けた調査・観察・実験等の学習活動を実施して課題を追求していく学習航海へ

現船での学習	新船での学習												
<p style="text-align: center;">「一斉学習」</p> <p>・生活班毎に、すべての児童が同じ内容をローテーションで学習する。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">①プランクトン観察</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②水の透視度調べ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">③シジミのストラップ作り</td> </tr> </table>	①プランクトン観察	②水の透視度調べ	③シジミのストラップ作り	<p style="text-align: center;">「課題別、探究的な学習」</p> <p>・学習班(課題別グループ)毎に、自分たちの課題追求のための活動を選んで学習する。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 33%;">Aグループ</td> <td style="width: 33%;">Bグループ</td> <td style="width: 33%;">Cグループ</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="padding: 10px;"> 課題別グループ毎に、自らの課題を追求するための調査・観察・実験等の学習活動に取り組む。 </td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="padding: 5px;"> 電子黒板とタブレット等を活用し、グループで学習した成果を交流する。 </td> </tr> </table>	Aグループ	Bグループ	Cグループ	課題別グループ毎に、自らの課題を追求するための調査・観察・実験等の学習活動に取り組む。			電子黒板とタブレット等を活用し、グループで学習した成果を交流する。		
①プランクトン観察													
②水の透視度調べ													
③シジミのストラップ作り													
Aグループ	Bグループ	Cグループ											
課題別グループ毎に、自らの課題を追求するための調査・観察・実験等の学習活動に取り組む。													
電子黒板とタブレット等を活用し、グループで学習した成果を交流する。													

- 湖を身近に感じ、体全体で学ぶ
海洋活動としてカッター活動に加えカヌー活動の導入を検討。
- 科学的にびわ湖を学ぶ(実験室の活用)
新しい機器(水中カメラ等)を使った観察や調査の導入。
- ICT活用で学習の充実を図る(学習室)
テレビ会議システム・船内LAN・タブレットPC・電子黒板等のICT環境を整え、学習の交流や発信、振り返りやまとめの学習に活用。

びわ湖フローティングスクール

新しい船の名前を募集します!

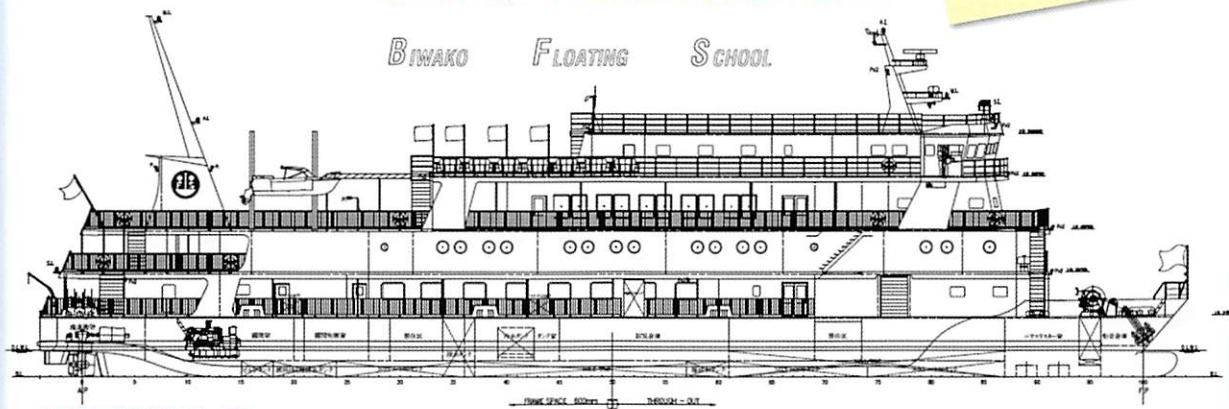
応募締切
平成29年
6月9日(金)

※消印有効

びわ湖フローティングスクールの新船は、平成30年5月の運航開始に向け、建造を進めています。県民のみなさまをはじめとする多くの方に愛される新しい船の名前を募集します。



※写真は現在の学習船「うみのこ」



※新しい船のイメージ

特典

採用された船名の応募者1名には、新しい学習船のペア体験乗船(日時限定)と近江米「みずかがみ」(10kg)を贈呈します。ただし、同一船名を応募した方が複数の場合は、抽選により決定します。

※写真は5kg



「うみのこ」とは?

滋賀県の小学5年生全員(近隣府県の一部の学校を含む。)が乗船します。

学習船「うみのこ」は、昭和58年に就航し、「びわ湖フローティングスクール」として、これまで約52万人の児童が乗船し、学習をしてきました。

「びわ湖フローティングスクール」とは?

母なる湖・琵琶湖を舞台にして、環境に主体的にかかわる力や人と豊かにかかわる力をはぐくむことを目的に、学習船「うみのこ」を活用した宿泊体験型の教育を展開しています。

問い合わせ

滋賀県教育委員会事務局 教育総務課企画係

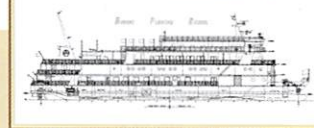
〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号 TEL:077-528-4512 FAX:077-528-4950

新しい船の名前を募集します!

新しい学習船の特徴

びわ湖フローティングスクール

※新しい船のイメージ



長さ：64.93m 幅：12.00m
総トン数：約1,210トン
最大搭載人員：223名（うち児童180名）

◆「安全性の向上」

- ・現在の船より喫水を50センチ深くし、強風時の安全性を向上
- ・ポンプジェット（補助推進器）を2基搭載し、接岸時や離岸時の操作性を向上

◆「環境負荷の低減」

- ・効率の良い動力システム（電気推進方式）を搭載した推進器を採用し、CO2やNO2などの排出を削減
- ・LED照明や太陽光発電の採用

◆「災害時の活用」

- ・災害時に飲料水や食料等を運搬できるスペースを確保
- ・琵琶湖の水を飲料水に変える浄水装置を搭載

応募方法

応募方法① しがネット受付サービス

「滋賀県ホームページ」➡「しがネット受付サービス」



（スマートフォン用）



（携帯電話用）

応募方法② 郵送

ハガキ等に次の（ア）～（キ）の項目を記載し、以下の宛先に送付してください。

（ア）応募する船名（お一人につき1点）

（注意事項）

- ・数字のみの船名は不可とします。
- ・現船名の「うみのこ」のほか、「うみのこ〇〇」、「〇〇うみのこ」なども可能です。

（イ）応募する船名のフリガナ

（ウ）応募する船名についての説明

（エ）応募者の住所

（オ）応募者の氏名とフリガナ

（カ）応募者の年齢

（キ）応募者の電話番号

※平成29年6月1日よりハガキ料金が62円に値上げされますのでご注意ください。

※採用された船名の応募者1名の氏名、住所地（市町村名）、年齢を公表します。

※そのほか、応募にあたっての注意事項等は滋賀県教育委員会ホームページをご確認ください。

選考方法

応募いただいた船名の中から県が設置する選考会において、3点程度の候補に絞り込み、最終的に知事が船名を決定します。

応募・問い合わせ先

滋賀県教育委員会事務局 教育総務課企画係

〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号

TEL: 077-528-4512 FAX: 077-528-4950